

お客さまへ

ご使用前に、この「取扱説明書」を必ずお読みください。お読みになった後、大切に保存し、必要なときにお役立てください。

安全のために必ずお守りください

警告
誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに
結びつく可能性があるもの

	器具の改造や指定部品以外の交換はしない。 (火災・感電・落下の原因)		器具のすき間や放熱穴に金属類を差し込まない。 (火災・感電の原因)
	器具やランプを布や紙などで覆わない。 (可燃物をかぶせて使うと火災の原因)		

注意
誤った取扱いをしたときに、傷害または
家屋・家財などの損害に結びつくもの

	お客さま自身で電気工事はしない。電気工事士の 資格が必要です。 (火災・感電の原因)		節電その他の理由でランプを取り外して間引き点灯 しない。
	ランプに塗料などを塗らない。 (ランプが過熱・破損してけがの原因)		ランプを落としたり、(物を)ぶつけたり、無理な 力を加えない。 (ランプが破損してけがの原因)
		器具の直下や近くにストーブなどの熱器具を置か ない。 (過熱して火災の原因)	

インバータ器具の取扱い

■器具の近くでワイヤレスマイクを使用すると、雑音が入り正常に作動しない場合があります。
■放送設備などの音声信号や映像信号は微弱なため、電源線や安定器の配線からの雑音を受けることがあります。

■テレビ、ラジオなどの音響機器や、赤外線リモコン、ワイヤレス機器などに、雑音や動作不良を起こす場合があります。

ランプ交換・器具の清掃

警告 電源スイッチを切ってから行う (感電の原因)

ランプ交換
(タイマーリセット)

本器具はランプの点灯時間に応じて調光率を変化させ、一定の光束を保つよう設計されています。従ってランプ交換時はランプの点灯時間を記憶した器具側のタイマーをリセットさせる必要があります。

①ランプを寿命末期まで使用する場合 (自動リセット)

- 電子安定器がランプの寿命末期を検知し、ランプを消灯します。電源を投入しても、ランプが点灯しなくなったら速やかにランプを交換してください。
- ランプ交換後は自動的にタイマーがリセットされ、器具は初期状態に戻ります。

②ランプを寿命末期まで使用しない場合 (手動リセット)

- ランプを寿命末期まで使用せず交換する場合は手動リセットが必要です。
- ランプ交換後『電源 ON (3 秒以下)、電源 OFF (1 秒以上)』を3回繰り返します。
- リセットが正しく行われたら、1 秒間 100%点灯し、その後調光点灯します。(器具は初期状態に戻ります。)

清掃

ランプ交換は器具単位で行ってください。多灯用器具の場合、ランプ1本だけの交換では、適正な照度補正が行われません。

警告

器具・ランプを水洗いしない (火災・感電の原因)

注意

- 点灯中及び消灯直後のランプや器具には触らない (高温のためやけどの原因)
- ランプをソケットに確実に取付ける (取付けが不完全な場合落下の原因)
- 使用済みのランプを不用意に割らない (ガラスが飛散してけがの原因)
- ソケットの清掃に洗剤を使用しない (洗剤でソケットが破損しランプ落下の原因)

禁止

- カバーなどプラスチック部分には次のものを使用しないでください。
 - みがき粉やたわし
 - 殺虫剤
 - 熱湯
 - シンナーなど揮発性のもの
 - 洗剤
 - 薬品
- ランプ・プラスチックや金属部分の汚れは、やわらかい布にぬるま湯または水をつけてよく絞ってふきとってください。
- 反射板の汚れは、やわらかい布でふきとってください。

適合ランプ FHF32

指定された適合ランプを使用してください。

蛍光ランプは点滅回数が多いと短寿命になります

保証について

■保証期間は商品お買上げ日より1年間です。ただし、蛍光灯器具内蔵の安定器は3年間です。ランプ、グロー点灯管、電池などの消耗品は対象外です。詳細は弊社カタログをご参照ください。

異常時の処置

警告
煙が出たり、変な臭いがしたり、破損したなど異常を感じた場合はすぐに電源スイッチを切る。(火災・感電の原因)
煙が出なくなるのを確認して、工事店または下記連絡先にご相談ください。

NECライティング株式会社

東京都港区芝一丁目7番17号(住友不動産芝ビル3号館)
〒105-0014 <http://www.nelt.co.jp/>
※この紙は再生紙を使用しています

<お客様相談室>
フリーダイヤル 0120-52-3205
受付時間 平日9:00~12:00、13:00~18:00
(土、日、祭日は受け付けておりません)
FAX. 03-6746-1521

NEC 照明器具

蛍光灯照明器具

反射笠付器具

型式名	公共施設形名	電圧	周波数	消費電力
MR32229-J9	FSR2-322	100 - 254V	50/60Hz	71W
MR32229-K9	FSR2-322	100 - 254V	50/60Hz	91W

取扱説明書

○この製品は日本国内用ですので日本国外では使用できません。またアフターサービスもできません。
○電源周波数 50Hz、60Hz 共用形ですから、日本全国どこでも使用できます。

施工者さまへ

○施工の前に、この「取扱説明書」を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
○取付工事の後、必ずお客さまにお渡しください。

安全のために必ず守ること

■誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、
 警告、 **注意** の表示で区分して説明しています。
表示の意味は表中で説明しています。

図記号の意味は次のとおりです。

絶対に行わない でください。	必ず指示に従い 行ってください。
-------------------	---------------------

警告
誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに
結びつく可能性があるもの

	引火する危険のある雰囲気を使わない。(ガソリン・ 可燃性スプレー・シンナー・ラッカー・可燃性粉じんのある 所で使わない) (火災の原因)		配線工事の際、電線の絶縁体にキズをつけない。 (絶縁破壊により感電・火災の原因)
	器具取付けの際は電線を挟まない。 (絶縁不良により感電・火災の原因)		施工は電気工事士の有資格者が電気設備の技術基準・内線規程に従い行う。

注意
誤った取扱いをしたときに、傷害または
家屋・家財などの損害に結びつくもの

	高温 (35℃以上)、粉じん、油煙の多い場所、強い 振動・衝撃のある場所で使わない。(落下・感電・ 火災の原因)		表示された電源電圧以外では使わない。特に定格電 圧の 90%以下の電圧使用は、安定器の短寿命、故障 となります。(火災・感電の原因)
	さびの出やすい場所、腐食性ガスが出る場所で使わ ない。 (劣化による落下の原因)		器具のノックアウトを外す場合はドライバー等により 電線を傷つけない。 (絶縁不良により感電・火災の原因)
	器具を乾燥不十分なクロス貼り・コンクリート面には 取付けない。 (絶縁不良やさびにより感電・落下の原因)		狭い箱のような中で使わない。また、器具を隠して 使う場合は、放熱を妨げない。 (器具が過熱して火災の原因)
	風呂場など水や湿気の多い場所で使わない。 (火災・感電の原因)		調光用専用器具以外は調光させない。 (器具が過熱して火災の原因)
	雨水のかかる場所で使わない。 (水気・湿気が入り感電の原因)		器具内に引き込んだ電源線をインバータと反射板の 間に挟み込まない。(電線が過熱して火災の原因)
	器具を密集して取付けない。(10cm 以上離す) (器具の温度が高くなり火災の原因)		

お願い

■周囲温度は 5 ～ 35℃の範囲でご使用ください。点灯始動保証温度は-5℃以上です。周囲温度 5℃未満での連続使用は、ランプ光束の低下やランプの短寿命となります。
■天井面に取付ける場合、取付ける部分が平らな所に取り付けてください。(すき間が発生することがあります。)

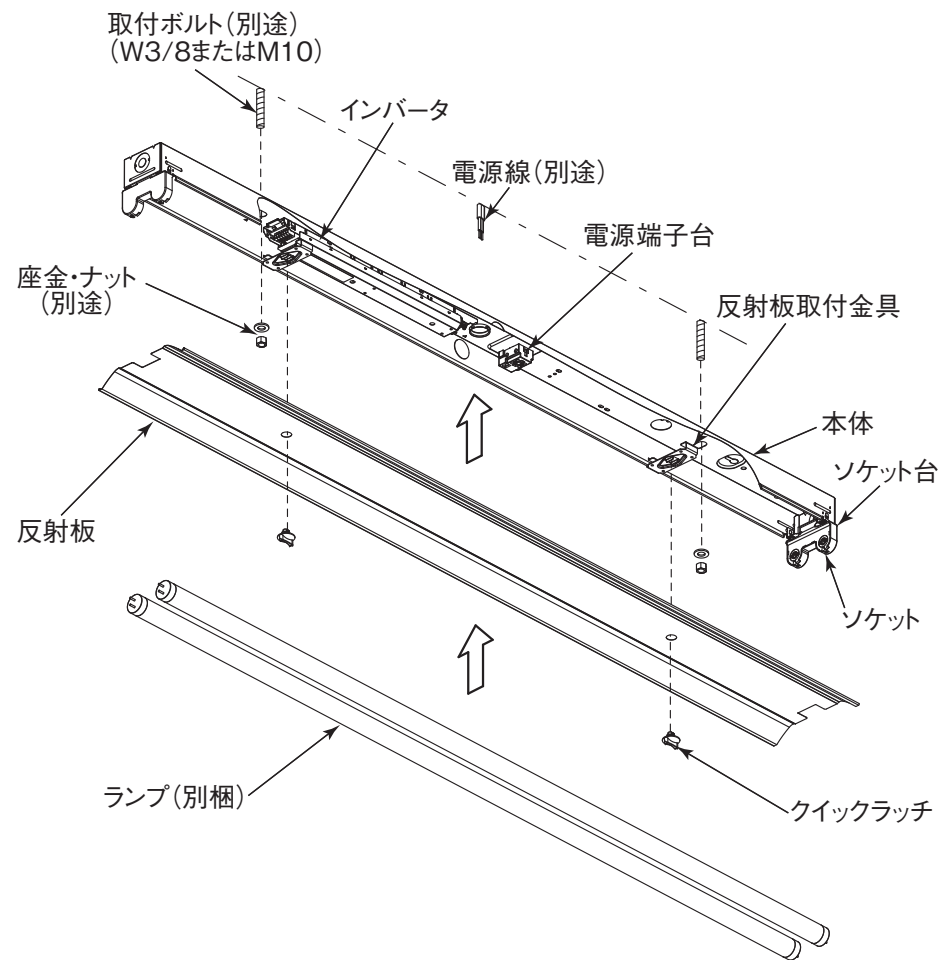
■インバータ器具の場合は、電力線搬送を使用した機器と電源を共用すると、電力線搬送機器が正常に作動しない場合があります。
■商品監視システム (防犯センサー) の一部の機器はインバータの周波数と干渉して誤作動する場合がありますので、事前に商品監視システムのメーカーにご確認ください。

照明器具の寿命について

●照明器具には寿命があります。設置して 8 ～ 10 年経つと、外観に異常がなくても内部の劣化が進行しています。点検・交換をおすすめします。
※使用条件は周囲温度 30℃、1 日 10 時間点灯、年間 3000 時間点灯です。

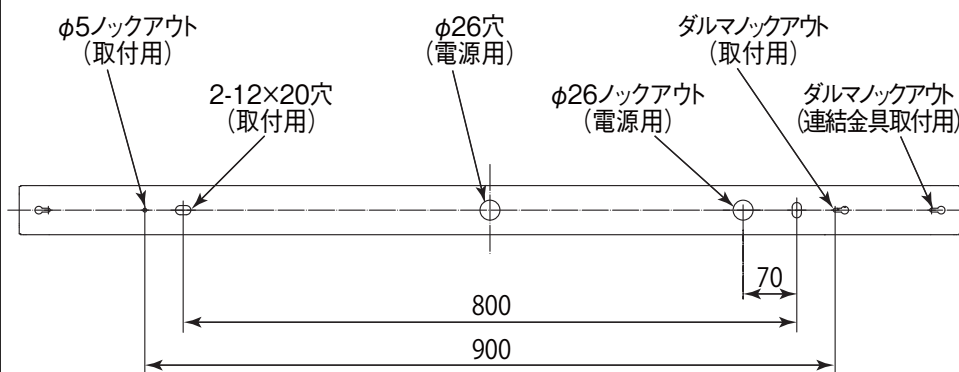
●周囲温度が高い場合・点灯時間が長い場合は寿命が短くなります。
●3 年に 1 回は工事店等の専門家による点検をお受けください。
●点検せずに長時間使い続けると、まれに、発煙、発火、感電などに至る恐れがあります。

各部のなまえと取付けた — ⚠ 警告 器具の取付けは取扱説明書に従い行う（不確実な取付けは、器具落下・感電・火災の原因）



取付穴

(単位 mm)



1 取付前の確認

- 器具質量に十分耐えるよう、取付ボルトまたは木ねじ取付部の強度を確保する。
 - ・取付ボルトを使用の場合は、W3/8 または M10 を使用する。
 - ・木ねじを使用の場合は、丸木ねじの呼び径 4.1 以上を使用する。

⚠ 警告

器具の取付けは質量に耐える所に取付ける（落下の原因）

2 ソケットを取付ける

- 本体に内蔵してあるソケットを、ソケット台へ差し込む。

3 器具本体を取付ける

- (1) 使用する電源穴にコードブッシュを取付ける。
- (2) 電源線・アース線を本体電源穴から引き込んでおく。
- (3) 本体を取付ボルトまたは木ねじで確実に取付ける。

⚠ 注意

取付けが不完全な場合落下の原因

4 電源線を電源端子台に接続する

- (1) 電源線を電源端子台の差し込み穴に確実に差し込む。

⚠ 警告

接続が不完全な場合は、接続不良による発熱により火災の原因

- (2) アース線を差し込み穴に確実に差し込む。

⚠ 警告

アース工事は電気設備の技術基準に従い行う（アース工事が不完全な場合は感電・火災の原因）

< D 種 (第3種) 接地工事が必要です。 >

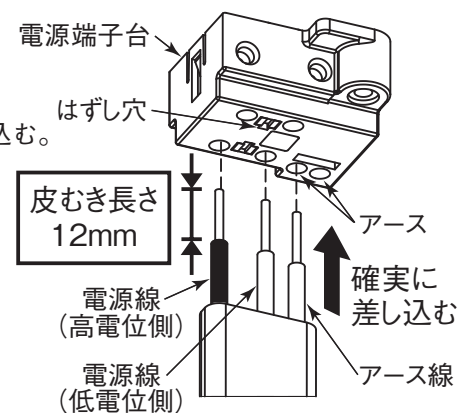
- 電源端子台の容量は **20A** です
- 適合電線：φ 1.6mm 単線 φ 2.0mm 単線

⚠ 警告

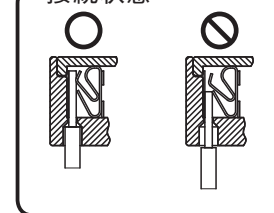
送り配線は照明器具専用とし、容量を確認して接続する（容量を超えると電源端子台が過熱・損傷し火災の原因）

⚠ 警告

電源の接続は適合太さの電源線を指定長さに被覆をむき、1本ずつ速結端子の奥まで差し込む（差し込み不十分は接触不良により火災・感電の原因）



接続状態



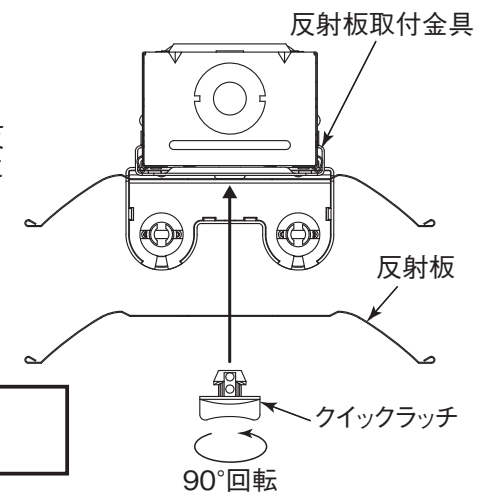
- 電源線接続の速結端子の電源線を取り外すときは、幅 6mm のマイナスドライバーを、はずし穴にまっすぐに差し込んでください。

5 反射板を取付ける

- (1) 反射板を本体に押しつける。
- (2) クイックラッチが反射板及び反射板取付金具を貫通するようにセットする。
- (3) クイックラッチを 90° 回転させ、反射板取付金具に固定する。

⚠ 注意

取付けが不完全な場合落下の原因



6 ランプを確実に取付ける

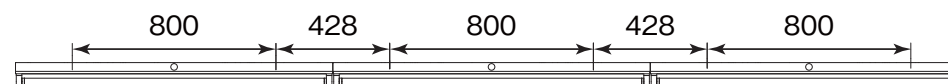
- 工場出荷時の光束値はランプ定格光束の約 70% に設定されています。

⚠ 注意

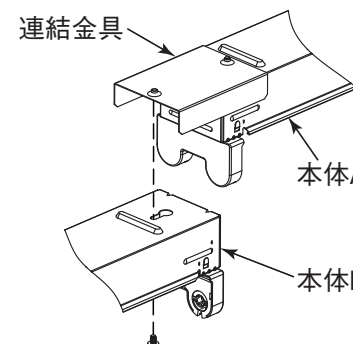
取付けが不完全な場合落下の原因

7 連続取付の場合

- (1) 器具の連続取付の場合、連結金具（特注品）を使用する。尚、別売になっていますので別途お買い求め願います。
- (2) 取付ボルトの間隔を確かめる。(単位 mm)



- (3) 本体の連結は本体端部側のダルマノックアウトを抜いて本体の背面より連結金具を取付けてから本体を取付ける。(本体A)。
- (4) 次に連結して取付けられる本体のダルマ穴に先に取付けられた連結金具のねじ頭をダルマ穴より差し込んでから本体を取付ける。(本体B)



- (5) 器具連結後、反射板連結具（特注品）を反射板に差し込む。尚、別売になっていますので別途お買い求め願います。

